

支部だより (平成二十九年度) 下半期

一宮支部

支部長 川 浦 碧 濤

●研修旅行

日時 十月二十九日(日)

行先 南信州(飯田市・奈良井宿) 参加者 一四名(内会員外四十四名)

朝七時五十分一宮を出発。名神高速・中央自動車道を走り「飯田市美術博物館」へ。菱田春草の作品等を鑑賞し、その後、天竜川畔の「よし乃亭」にて懇親昼食会。午後からは、奈良井宿へ。この時期には珍しい台風の接近により、思い出に残る旅となりました。



研修旅行

●第六十三回一宮支部展

会期 十一月二十五日(土)～二十六日(日) 会場 一宮スポーツ文化センター 出品者 支部員 二〇五名 青年部 個人三名 五団体七十八名

第七十二回一宮市芸術祭参加事業の一環であり、本部からは理事長関根玉振先生はじめ、副理事長伊藤仙游先生、同岡野楠亭先生、同松下英風先生、事務局長大池青岑先生の賛助出品を賜りました。陳列作業も手際よく進み、一宮支部員の「一致団結」を痛感致しました。短期間ででしたが、深遠な芸術の森を散策することが出来、良き学びの場となりました。



学生書道展



支部展

●第四十六回一宮支部学生書道展

支部展と同時開催 総出品点数 三、三八三点 会場は多くの出品者やご家族で賑わい、

充実した「目の勉強」「親子のふれあい」の場となり、各々が作品を見る真剣な眼差しが印象的でした。また、平素味わう事のない、好きな色を使って思い思いの文字や言葉表現する「新年カレンダー作りイベント」も好評でした。

●支部講演会

日時 二月二十五日(日)

会場 一宮スポーツ文化センター 講師 一宮支部第八代支部長 亀山雪峰先生

演題 「書のいろいろ(毛笔叢話)」

聴講者 一六七名(内会員外二十七名) 亀山先生の長年に亘る総合的な「書」の研究を講演いただきました。書と文字の成り立ち及び意味を始め、美しい文字の原則、作品づくりの原則。更に、書は時代によって変わるといった内容等を事細かにお話をいただき、書道愛好家は勿論、斯道に関わる方々にとって貴重な学びの場となりました。



講演会

●支部集会・交流会

日時 二月二十五日(日)

会場 支部集会 一宮スポーツ文化センター 交流会 真清田神社参集殿

出席者 支部集会 一三名 交流会 一三名 集会は、本部より理事第一経理部長横井宏軒先生、監事第一企画部兼IT部部長佐野翠峰先生にご臨席賜り、二十九年度事業報告と三十年度事業計画が承認されました。交流会においては、本部の先生方に加え、地元議員の先生方、一宮市教育委員会教育長、協賛会員の方々など多くの御来賓をお迎えし、和やかに開催いたしました。



支部集会/交流会

半田支部

支部長 山内江鶴

●第五十一回半田支部展

会期 九月三十日(土)～十月一日(日) 会場 半田市福祉文化会館 出品数 一二〇点

本部から関根玉振理事長、伊藤仙游副理事長、岡野楠亭副理事長、松下英風副理事長、大池青岑事務局長の玉作を賛助出品していただき、会場に花を添えていただきました。半田支部展も回を重ねる度に個性豊か、意欲的な作品が増え、見応えのある展示会ができました。

●第三回公開書道研修会

日時 十月一日(日)

会場 半田市福祉文化会館 講師 本部庶務部長 村瀬俊彦先生

参加者 五十五名

本年は「かな、あれこれ」をテーマに、村瀬先生より古典のお話、そして先生が収集された貴重な墨・料紙を見せていただきながらの勉強、その後、実技指導をいただきました。短い時間でしたが参加者の方々には、大変満足していただけたようでした。



研修会風景

●研修旅行

日時 十一月十二日(日)

行先 篠田桃紅美術空間・熊谷守一記念館 参加者 三十九名

本年は、台風の接近により九月十七日の予定を十一月十二日に変更して実施しました。おかげで紅葉のきれいな時期になりバスは一路、篠田桃紅美術空間へ。会場は「百の譜―渡米一九五六一―五八」と題して、書から墨象へと桃紅独自の表現スタイル



支部集会



研修旅行

ルを確立する転機となった、ニューヨークでの挑戦の紹介と、その前後時代の展示作品を鑑賞。昼食後、熊谷守一つけし記念館で作品鑑賞。洋画、日本画、書、墨絵、版画等、作品から先生の人生の生きざまが表れているようであった。まさに画壇の仙人で行く秋を満喫し帰路につきました。

●支部集会・講演会

日時 三月四日(日)

会場 半田市福祉文化会館 参加者 六十六名

本部より松下英風副理事長、天野白雲総務部長のご臨席を賜り、二十九年度事業報告、会計中間報告、三十年度事業計画、予算について審議され承認されました。

講演会 参加者 六十四名

集会終了後、同会場で西山浄土宗天龍山常楽寺住職 榊原是宏氏を講師にお迎えして「常楽寺」という演題で、ご講演をいただきました。初めに、仏教の特色について、常楽寺と徳川家康、家康公三度来山ただし、常楽寺文書には二度目に寄ったとされる本能寺の変の時には記載がない。常楽寺の御本尊さまについて、そのお姿の意味を詳しくお話をしていただきました。そして最後は、仏とは、全ての人は仏の種を宿し、命終われば全ての人が仏になると説く。ありがたいお話をいただきました。

東三河支部

支部長 林田虎峰

●研修旅行

日時 十月二十九日(日)
行先 信楽陶芸村・ミホミュージアム
参加者 三十九名

台風接近の悪天候の中、滋賀県信楽陶芸村に向けて出発しました。信楽陶芸村では、登り窯の前で信楽焼とたぬきについて職人さんの楽しいお話を聞きました。



その後、近江牛鍋の昼食をいただき、見学やショッピングを楽しみました。

ミホミュージアムは山道を登った先の山の中にありました。レセプション棟でバスを降り美術館棟までのアプローチを歩きました。光や音に工夫されたトンネルを抜けると目の前に美術館棟が現れ、入り口までの渓谷を渡る橋はまさに桃源郷へ誘うためのアプローチでした。「曜変天目茶碗」「カメオ装飾杯」「ガンダーラ仏立像」等々、たくさんの日本古美術や世界の古代美術を鑑賞することができました。



研修旅行

●支部講習会

日時 一月二十八日(日) 午後一時半
会場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム講義室

講師 陶芸家 内藤常次氏
内容 陶印制作
参加者 四十八名

講師に地元東三河で活動されている内藤氏をお招きし、初めに陶芸についての講義をしていただきました。続いて、各自があらかじめ用意した文字や図柄で印稿を作り、印柱に転写して印面を掘る作業が始まりました。参加者全員の集中力が会場に溢れ、終了時刻に気がつかないほどでした。制作した作品は講師の先生の元で釉薬を施され、本焼きをしてから参加者の手元に届くことになっています。



講習会風景

●支部選抜展

会期 一月三十日(火)～二月四日(日)
会場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム一室
出品数 七十三点 入場者 九〇八名

顧問の寺田樹風、黒川双嶺、村田華穂、権田徳園各先生方、参与の鈴木瑞象、内藤大旺各先生方に玉作を出品していただき、各社中からは会員の個性あふれる作品が出品されました。会場の都合で作品の大きさが例年より小さくなりましたが、多くの書道愛する方々にご来場いただき盛会のうち最終日を迎えることができました。



選 抜 展

濃飛支部

支部長 石原聲風

●研修旅行

日時 十一月十二日(日)
行先 信州康耀堂美術館を
目的 訪ねる秋の旅
参加者 三十名

J A ひだを七時に出発したバスは中津川市役所恵那文化センターで会員を乗せ、中央高速道路で長野方面へ向いました。初めに諏訪大社本宮を参拝し御祓をして戴きました。次に峠の釜めしで昼食をとりました。その後、長野県茅野市にあります康耀堂美術館の作品を鑑賞致しました。康耀堂美術館は八ヶ岳の麓、蓼科高原の入



研修旅行



口、六千坪の森の中に佇んでいました。この初代館長は佐島康郎氏、佐島氏のコレクション

によって美術館が建設されました。佐島氏没後二〇〇五年八月に京都造形芸術大学に寄贈された後、現在に至っており、現館長は千住博氏が、ご就任されておいでです。作品の中には、非常に珍しい高山辰雄作のブロンズ像や草原の朝の絵画、横山大観、川端龍子、中島千波の桜の絵など数多くの名品が展示されており、会員の皆さんは自分のお気に入りの作品を何度も観たり感想を交流し合ったりして熱心に鑑賞して見えました。心を残したまま帰路に向いましたが、美術館の近くには、縄文時代中期の集落が構成された代表的な遺跡の尖石遺跡があり、そこも見学したかったなと個人的には思いました。でも時間的には無理だったかも知れません。途中蓼科高原チーズケーキ工房を見学し一日の旅を終えました。バスの中では諏訪神社に詳しい会員さんから丁寧な説明をお聞きしたり、会員さん相互の交流が出来たり、楽しく有意義な研修旅行が出来ました。感謝です。



中島千波《山鳥神代像》

●第一回広報委員会

日時 十二月十七日(日)

(文責 中垣幸聲)

北勢支部

支部長 井口方燕

●研修旅行

日時 十一月十二日(日)

行先 道風記念館と日比野五鳳記念館他
参加者 三十七名

行程は近鉄四日市駅前と桑名駅前で参加者に乗せ東名高速道路を通り春日井市へ。道風記念館では館長さんより道風についてのお話をお聞きした後、企画展「書の魅力展」を鑑賞し、作品を身近で観る事で魅力的な線を引く時の息遣いを感じることが出来ました。

名鉄小牧ホテルでランチを食べた後、昭和のかな書道の最高峰の日比野五鳳先生の記念館へ、日比野先生の空間の使い方や行の流れの素晴らしい作品に感動し、また神戸町役場の玄関壁書の山上憶良の「子らを思う歌」は圧巻でした。



研修旅行

最後は大垣の奥の細道むすびの地記念館へ。入口近くのバナナの木に珍しい花が咲いているのを係の人に教えて頂いた後、中に入り松尾芭蕉の奥の細道の旅についての迫力のある3Dの映像を見ました。学芸員の方から芭蕉紀

行文の文体の変化の解説をして頂き、その後、お土産を買い帰路につきました。書についての知識を高められる有意義な旅でした。

●講習会

日時 二月十一日(日)

会場 じばさん三重
講師 (有)進誠堂 伊藤晴信氏
参加者 四十名

まず初めに写真を見せて頂きながら墨づくりの工程のお話の後、墨は湿度に弱く七ヶ月半の間に一年分の墨を造る、また墨職人で伝統工芸士と認定されているのは墨づくりにおいて全ての工程を一人の職人がする鈴鹿墨だけで、しかも鈴鹿墨を製造しているのは進誠堂さん一軒だけというお話や、一分で磨れる墨、ラメ入りの墨、眉墨、壁に墨で塗装する、布を染める、墨入りのクッキーなど、書道だけではなくいろいろな用途に使用されている事など色々色々と墨について知識を得られました。最後に墨は書作品の種類によつて、重い墨、軽い墨を使い分け、思い描いている作品の墨を選んで頂けるとの事なので一度進誠堂さんに伺いたいと思えました。講義はとても興味深い話ばかりで参加者は終始熱心にお話を聞いていました。



講習会風景

講義の後、有機顔料の入った墨で、寸松庵色紙に受講生が思い思いの字を書いて楽しみました。

(文責 伊藤芳香)

中南勢支部

支部長 高根桂祥

●支部集会・講演会・懇親会

日時 平成二十九年十月一日(日)

会場 アストビル第一会議室・松重
本部より関根玉振理事長、岡野楠亭副理事長、松下英風副理事長ご臨席のもと、年間事業計画、報告(十一月十五日から開催の支部展についての詳細)、会計報告がなされ、四十五名の出席者からの承認を得る事ができました。



講演会風景

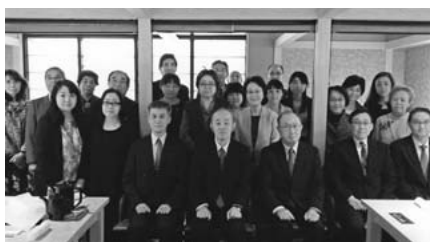


懇親会

引き続き、講師の春日井道風記念館・館長の落合哲先生をお迎えして講演会を開催。「小野道風について」の興味深いお話を伺いました。

小野道風を、「みちかぜ」か「とうふう」と読むかの素朴な疑問にもお答え頂き「一芸に秀でた人を音読みにする」という時代の背景も知ることが出来ました。道風の人となり、伝説と経歴、そして書の特徴など、一同、熱心に聴講致しました。

来年度の中南



懇親会

勢の研修旅行には道風記念館に伺いたいと、その時には特別展が開催されていることを折念して、出席者の賛同を得て閉会となりました。その後、津駅前「松重」に席を移し、和氣調々の裡に懇親会を終えました。(文責 中村翠雲)

●支部展

会期 平成二十九年十一月十五日(水)～十九日(日)

会場 三重県立美術館県民ギャラリー
出品数 一六一点
入場者 六八二名

本部の先生方の玉作に加え、中南勢支部に籍を置かれる鬼頭翔雲名誉副会長の力強い作品も会場に花を添えて頂きました。今回は中高生、小学生の学生作品も募集、展示して家族連れの方々も多く会場が賑わいました。



学生作品展示

(文責 谷 鴻風)



支部展

岐阜支部

支部長 坪井景照

●研修旅行

行先 奈良・薬師寺とならまち散策
日時 十一月二十九日(水)

参加者 三十八名

JR岐阜駅北口を朝八時に出発、バスの中で「奈良町お散歩ガイドマップ」を頂き、ガイドさんより見どころを説明。限られた時間内を各自、興福寺、元興寺、庚申堂、土産店へと散策致し、古き町並を楽しみました。その後、奈良パークホテルへと移動し、昼食をとり、今回のお目当ての薬師寺へと向うその頃より雨がポツポツして来ました。薬師寺は境内広く、至る所に古きお庭と多くの伽藍が相和し、初め金堂での講話、食堂の田淵俊夫画伯による「阿弥陀三尊浄土図」を中心とする約五十米にわたる壁画、「仏教伝来の道と薬師寺」図を鑑賞し、行けども、くも、お目当ての壁画は遠く、途中見るべきものも、ゆっくり見ることなかなかわず、奥へ奥へと進み、一番奥にありました。玄奘三蔵院伽藍内の平山郁夫画伯筆「大唐西域壁画」は、昭和

五十一
話が決ま
り、その
後、現地
取材百余
回、制作
期間は三
十年以上
とか。画
面の全長
は三十七
米、壁画



薬師寺 風景



薬師寺金堂

十三米に中日、長安、インド寺院へ至る七場面が描かれています。鮮やかな色彩、岳々しい山並が続く素晴らしい作品でした。到着時間は遅れましたが、良き晩秋の旅でした。



記念写真

第三十五回 読売書法展
第七十回 毎日書道展

当番審査員

第三十五回 読売書法展

第七十回 毎日書道展

◇審査顧問

樽本樹邨

◇当番審査員

〈漢字Ⅰ類〉

河田聖翠

◇当番審査員

〈漢字部門〉

伊藤昌石

伊藤仙游

〈漢字Ⅱ類〉

鈴木史鳳

加藤紫雲

関根玉振

〈かな部門〉

近藤浩乎

佐久間雅子

〈近代詩文書〉

川本大幽

古田祥扇

山本雅月

〈篆刻部門〉

吉澤有岐子

岡野楠亭

日比野妃扇

後藤啓太

〈予告・祝賀懇談会〉

平成三十年度 公益社団法人 中部日本書道会総会、功労者表彰

第六十八回 中日書道展入賞・入選者

樽本樹邨名誉会長代行

第四十九回東海テレビ文化賞受賞

安藤滴水名誉副会長

第六十九回愛知県教育文化功労者表彰

平成三十年六月二十四日(日) ホテルナゴヤキャッスル